

第19回 先端加速器科学推進シンポジウム

日 時：平成25年6月12日

場 所：東京大学

共 催：高エネルギー加速器研究機構、高エネルギー物理学研究者会議

I L C国際共同設計チーム、I L C実験管理国際組織、
リニアコライダー・コラボレーション

テーマ：ILC World wide event: From design to reality

「国際リニアコライダーワールドワイドイベント ～設計から実現へ～」

概 要：

6月12日（水）、東京大学山上会館（東京都文京区）で「国際リニアコライダーワールドワイドイベント～設計から実現へ～」が開催された。これまで国際リニアコライダー(ILC)の研究開発に関わった世界の研究者、エンジニア、産業界が参加してI L Cの技術設計報告書(Technical Design Report、TDR)の完成・公開を機に、世界の3地域(アジア、欧州、北米)の会場で同日に祝賀会を開催した。3地域には時差があるため、アジア会場である日本から欧州会場のスイス、最後に北米会場のシカゴの順番で実施された。この祝賀会をもって、これまでI L Cの研究開発を進めて来た2つの国際組織、国際共同設計チーム(GDE)と実験管理国際組織(RD)から、2013年2月に発足した新組織リニアコライダー・コラボレーション(LCC)へと活動が完全に引き継がれた。

イベントはアジア会場である山上会館からスタート。会場には、L C Cのディレクターを務めるリン・エバンス氏、L C Cの監督組織であるリニアコライダー国際推進委員会(LCB)の駒宮幸男議長、そしてL C Cの副ディレクターを務める村山斉氏が参加し、講演を行った。

駒宮氏は、昨年7月に欧州合同原子核研究機関(CERN)の大型ハドロン衝突型加速器(LHC)によるヒッグス粒子の発見を「7月革命」と例え、「これからの研究の進展が非常に楽しみです。それに必要となるのがI L C」と語った。エバンス氏は、そのLHCの加速器建設を率いたプロジェクトマネジャーを務めていた。LHC加速器やその測定器を作り上げるにあたり、日本の研究者、エンジニアや企業が大きく貢献した。エバンス氏は「私は日本人の力量には、常に感銘を受けてきました。日本は非常に信頼されている国です。」と述べ、I L Cの日本建設への期待を語った。村山氏は、ヒッグス研究等、I L Cで研究が進むことが期待される物理学について解説。「学生の時には不可能だと思っていたI L Cの技術が今実現しようとしている。非常に感動しています」と語った。

また、韓国、中国、インド、日本の研究者の代表も、来賓挨拶を行った。韓国からは、ドン・チュルソン慶北大学教授・高エネルギー物理学研究センター前所長が来日して会場で挨拶。中国の王芳中国科学院高能物理研究所所長と、インドのアミット・ロイ大学連携加速器センター所長が、インターネットを通じて挨拶した。また、日本の研究者代表として挨拶を行った、I L C戦略会議の議長を務める山下了東京大学准教授は「みんなでI L Cを実現させましょう」と会場に呼びかけた。

アジア会場のイベントの最後には、本イベントの実施委員会の共同委員長を務めた山本均LCC物理・測定器担当ディレクターから、スイス・ジュネーブのCERNの欧州会場に向けてバトンを投げる「バーチャルなバトンタッチ」が行われ、会場は笑いに包まれた。欧州会場から、さらに米国のフェルミ国立加速器研究所 (Fermilab) の北米会場へと引き継がれ、GDEのディレクター、バリー・バリッシュ氏から、将来加速器国際委員会 (ICFA) のピア・オドーネ議長へと設計書が手渡され、イベントが締めくくられた。各地域では、シンポジウム、一般講演会、レセプションなど、趣向を凝らした様々な報告書完成記念イベントが実施され、参加した研究者、関係者がこれまでの研究開発の成果を祝った。